

一般財団法人市川市福祉公社

令和5年度 第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 令和5年8月7日（月） 15時00分～16時00分
2. 場 所： 大洲防災公園 ふれあいセンター2階 第1～2会議室
3. 出席者 26名

〔委員〕

議長 林 芳夫
委員 竹内 美知
四ツ屋 真由美
村尾 薫

以上 委員 4名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課	2名
高齢者サポートセンター市川第一	1名
高齢者サポートセンター市川第二	1名
高齢者サポートセンター市川東部	1名
高齢者サポートセンター菅野・須和田	2名
高齢者サポートセンター国府台	1名
高齢者サポートセンター八幡	1名
高齢者サポートセンター信篤・二俣	1名
高齢者サポートセンター宮久保・下貝塚	2名
居宅介護支援事業所	1名
定期巡回事業所	2名
市川市福祉公社	4名

以上 オブザーバー 19名

〔事務局〕

事業一課 課長 秋穂 益江
当該事業管理者・計画作成責任者 藤田 健治（欠席）
ヘルパーステーション（巡回） 主任 澤村 泉
ヘルパーステーション（巡回） 主任 星野 睦

以上 事務局 3名

■ 開 会

- (1) 事務局より資料の説明を行う
 - ・令和5年度 第1回 介護・医療連携推進会議資料
 - ・利用者一覧
- (2) 事業一課 課長より挨拶
- (3) 委員、オブザーバー紹介

(4) 事務局紹介

●サービス提供等状況報告・相談受付状況について

<事務局 澤村>

- ・レジュメに沿い令和5年1月～6月のサービス提供等状況、相談状況を報告した。

<村尾委員>

- ・相談件数が増えている事は、やはり市の方からのアナウンスも大きく影響しているかと感じた。相談のみの方も多くみられるが、今年になり認定がなかなかおりにこないと話がある。今までのコロナ禍で特例として期間を延ばしているが、最近では1か月に行う認定調査が格段に増えており、審査会に時間を要してしまっている事もある。

<四ツ屋委員>

- ・導入になった例で、長期間入院されて在宅が落ち着くまでサービスを利用するという導入はとても良い。柔軟に対応が出来るところが良い。要介護度が低いと受けられないのか？

<事務局 澤村>

- ・服薬確認だけの利用者等を入れてルートを組むと、本来は対応もしやすくなる。

<竹内委員>

- ・昨年、メールで協力を頂きそれが数字として目に見えてくるのは非常に良いと思った。相談から契約に結びつけられたというのは、皆さんの成果だと思うので、今後も良い成果が出る様に祈っている。また何かあれば、相談をお願いしたい。

●事例報告

<事務局 星野>

- ・レジュメに沿い報告した。

<村尾委員>

- ・特に質問等はない。ご利用者様とご家族との関係性も良好で、とても協力的でいい家族関係だと感じた。状況も良くなり歩き出し、それに対してもご家族はご本人の気持ちを最優先にとある。サービス側の事業所は事故がない様にと必ず思う所だがご本人の気持ちを最優先にと家族は考えているのであれば、多少の尻もちや骨折の疑いなども仕方なかったのではないかと思う。

<四ツ屋委員>

- ・よく転倒してしまうケースはとても多い。家族と本人が了承している事であれば良いと思う。

<竹内委員>

- ・特に質問はない。家族や利用者様はとても良い関係性が取れている事が分かった。その結果としてニーズを優先し怪我をされてしまう事はあるかもしれないが、ご家族として利用者本人を自由にさせてあげたいという思いを選ばれた結果なので仕方ないかと感じた。

●オブザーバーからの意見

<介護保険課 松野様>

- ・本人のニーズに沿って提供してもらい凄く幸せだったのではないかと感じた。それでも、どうしたら良かったのかなどと検討していると言う事は、更に良い事だと思った。

これで満足と言う事は無いと思うので、引き続きサービス提供に努めて頂けるとありがたいと思う。

<八幡 山本様>

- ・ケアをするときに自己決定とリスク管理が相反するというケースが出てくると思う。その際は話し合いを前提に自己決定が尊重されるべきである。行き過ぎた自己決定でなければ、リスクがあっても自己決定をとる事が多い。ただ本人だけではなくご家族との意見が一致しているかどうかが重要になるので、ケア側としては本人と家族との話し合いを持ち、出来るだけ本人の過ごしやすいうにしていくことが重要。もちろん、リスクが出てしまう事もあるがその時に根拠を持って話し合いをしたということと言えるような状態となっておくことが大切。

<市川第一 小川様>

- ・相談件数も以前と比べて増えており素晴らしい。事例に関しても、リスクを伝えた上で本人家族共に、それでもこうしたいという気持ちがあったので良かったのではないかとと思う。ただその中でも、こうなった時にどのようにしていくかと言う事が共通認識できていると、今回の様に転倒し骨折してしまってもお互い嫌な思いをせずすむので、共通認識を持つことが良いと思った。

<市川第二 東條様>

- ・予防の方を見る事が多く、定期巡回へのサービスの理解がなく提案する事がなかったが今回、相談からの流れを知り勉強になった。

<市川東部 山門様>

- ・定期巡回はあまり経験が無いので参考になった。実績が上がってきていると言う事で人員の確保が大変かと思う。今後、人員の余力などはどうなっているのか。

<福祉公社 事業一課 秋穂課長>

- ・人材確保について、今現在はおおよそ定着したため、新規拡大をしていく。

<菅野・須和田 天野様>

- ・特に質問はないが、今後の参考にしたいと思う。

<菅野・須和田 八木様>

- ・今回、定期巡回について今まで知らなかった事を知ることが出来た。ご家族や事業所側との関係性が良好だったことやご本人様からの信頼があり、とてもいい方向に進んだことが良かった。本来、ご家族との関係性やご本人の受け入れで悩まされることが多いが参考になった。

<国府台 古川様>

- ・定期巡回について、あまり紹介する事がないが、今回の事例を通して、このようなサービスがあると言う事を地域の皆様へ紹介して行ければと思っている。コロナはなくなっていないが、地域の皆さんが集まる機会が増えて来ており、介護教室などが開かれた時などに介護保険のサービスについて話をするに興味を持って下さる方が多いため、その時などに紹介して行けたらと思っている。

<信篤・二俣 岩淵様>

- ・事例を通してご家族側と支援者とが上手に意見のすり合わせが出来たケースであったのではないと思う。信篤・二俣でも支援困難なケース要介護の方でもケアマネジャーと共同して動いているという事もある中で、昨年度までは件数も少ないというイメージもあり、お話しても支援に繋がりにくい感じもしたが人、数も増え相談件数も増えて来ていると言う事も知れたので、今後、地域の方々やケアマネジャーと共同していく際にも

選択肢の一つとしていけたら良いと思った。

<宮久保・下貝塚 川原様>

- ・北部に関しては、提供地域の関係性もあり導入はなかなか難しい地域が多いため、今までもヘルパーさんと夜間型を組み合わせ提供する事が多かった。今後も徐々に広がっていく上で、やはり定期巡回というのは重要なと感じた。今までのイメージは 20 分以内で長くて 30 分と思っていたが、事例の中ではアセスメントに沿って時間を柔軟に対応してくれているということが良かった。

<宮久保・下貝塚 石井様>

- ・ご家族やご利用者様との関係・リスクへの対応など、今回の事例を通して勉強になった。

<中山総合福祉マネジメント 鈴木様>

- ・今回の事例は、担当しているご利用者様となっている。定期巡回がなければ在宅では対応が出来ないというくらい助けになっている。開始当初は、ご家族から男性職員の受け入れは大丈夫かと不安視されることがあったが、始まってみたら問題なくスムーズに進んで行く事が出来た。

<SOMPO ケア定期巡回 田村様>

- ・人材確保に関して上手くいっていると言う事が素晴らしい。人員不足が続いているため、訪問介護と協力して行っているがギリギリの状態となっているので、まずは人員確保に努めていきたい。

<くらしさ南行徳 小山様>

- ・有料老人ホームでの定期巡回と訪問介護を行っているが、人員確保に関しては紹介を通して確保出来ており、住宅型と合わせ 29 名の職員の確保が出来た。その為、ホーム外での訪問も可能となり、現在、営業に力を入れ始めている。ただ男性ヘルパーの人材が少ないため介護度が上がっていった時の対応を考えている。

<福祉公社 小坪様>

- ・定期巡回を利用するのは在宅生活を維持するというイメージが強かったが、今回の事例は家族が同居と言う事で、身体的なケアに関してはプロの介護サービスに任せ、生活援助は家族が中心となり行うと言う事でご家族のレスパイトサービスも出来ていると感じた。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 令和 6 年 2 月中旬。

以上

文責：市川市福祉公社

事業一課 ヘルパーステーション（巡回） 星野